

茨木市立沢池小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|-------------|
| ② 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ② A 話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ③ B 書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④ C 読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問
1 三 津田梅子についての【スピーチ】の練習の□□の部分で話す内容として適切なものを選択する
- ・もっとも正答率の低かった設問
3 三(2)イ 丸山さんの【文章の下書き】の中の——部イで波線部「残されています」の主語として適切なものを選択する

分析

国語は全般的に概ね良好な結果であった。無解答率においては非常に低い結果となった。また、全国と比べると「目的や意図に応じ、資料を使って話す」では良好な結果が見られた。このように相手を意識し、他者を理解しながら話を聞くことができるのは、本校の努力目標である「お互いを認め合い、自信を持って表現できる子どもの育成」を教職員が意識して教育活動を行った結果が表れていると考える。

一方、全国的な傾向と同じく「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」では課題が見られた。文章中から必要な情報を見付けることができるが、文章と図表とを結び付けて考えることが難しいようだ。国語に限らず、他教科でも文章と図表を結び付けて考える活動や経験を増やしていく必要がある。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------|-------------|
| ① A 数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ② B 図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③ C 測定 | 概ね良好な結果であった |
| ④ C 変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ⑤ D データの活用 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問
3(4) 帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く
- ・もっとも正答率の低かった設問
2(2) 直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ

分析

算数は、全ての領域において概ね良好な結果であった。これも、3年・4年の習熟度別少人数指導、スクールサポーターの入り込み支援や教職員同士の児童実態理解、指導方法の連携により、個に応じた指導、基礎的・基本的な知識、技能の定着を図ってきた結果が表れていると考える。また、全国と比べると、「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる」などのデータの活用領域では、良好な結果が見られた。このように、目的に応じてデータを集めて分類整理したり、統計的な問題解決をしたりすることができるのは、ペア活動やグループ活動等の学びあい活動を重視したこと、問題解決的な授業を進めてきたことによる結果が表れていると考える。

一方、「複数の図形を組み合わせた図形の面積について量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる」では課題が見られた。自分で「なぜこうなるのか。」と粘り強く考え、筋道を立てて説明できる力の育成が必要だと考える。今後も、児童の主体的な学びを促す授業づくりや学び合う活動を取り入れた、「一人も見捨てない」授業づくりを意識して教育活動を行っていきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・各年度によつての差はあるが、国語算数とも全国平均を基準とすると平均正答率は概ね良好な状態が続いている。
- ・算数では、ほぼ全領域が全国平均を上回っている。習熟度別少人数指導や学習サポーターの積極的な活用、問題解決を中心とした授業づくりなどの成果が表れていると捉えることができる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層(EP層)についての分析

- ・国語・算数ともに、学力高位層が増加し、学力低位層が減少している。
- ・国語において、前年度よりEP層の減少傾向が見られた。国語・算数ともに全国平均と比べるとEP層の割合が非常に低い。引き続ききめ細やかな指導を行い、学力の底上げを図ってきたい。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

① 授業改善

- ・学びあう活動を取り入れた、「一人も見捨てない」授業づくり
(ペアやグループ、全体での話し合い活動などを通して意見を交流することで学びを深める)
- ・児童の主体的な学びを促す授業づくり
- ・全学年校内公開授業研究会実施
- ・校内公開授業実施
- ・パワーアップ研修会(専門的な教育技術の共有化)
- ・3, 4年算数習熟度別少人数指導の充実

② 基礎学力の向上

- ・「漢字学習」「ことばあつめ」等の取組み
- ・読書好きな児童を増やすための取組み
- ・学校図書館支援員と連携した学校図書館の効果的活用(蔵書・配架の工夫)
- ・図書室使用などを通して読書の機会の設定及び読解力や書くための前段階としての個人で考える力の育成

③ 全校での取組み

- ・スクールサポーターとの丁寧な連携、習熟度別少人数学習などを通して個に応じた支援、指導を充実させる。
- ・学び合える集団づくりをすすめるために、自分も他者も大切に思う気持ちを養うことを重視する。
- ・異学年交流や異年齢活動の中で、子どもたちのコミュニケーション力や人と関わる力、自己有用感などを高める。
- ・これまで継続してきた学校行事を大切に、ねらいを明確にした計画的な行事の取組みで、子どもたちに達成感を持たせ、集団の高まりや個人の成長を促す。
- ・学校として『自分のことを他者に伝えられる表現力～書く力～』を研究テーマに公開授業研究会や研修会を実施する。全学年でふりかえり活動を行い、書く時間の保障をおこなう。